

たどつのもかし

Vol.2 (H25.1.22)

多度津町内で初めて石製の紡錘車が出土しました！



図1:南鴨遺跡出土の石製紡錘車



図2:紡錘車の形状

皆さんは紡錘車(図1)というものをご存知でしょうか？紡錘車とは紡錘、つまり糸に撚り^よりをつけるための道具の一部です。こまの軸棒を長くしたような形態をしています(図2)。円板・半球・球・円錐などの形をした粘土、石などの中心に穴をあけ、これに上端をフック状にした細長い棒をさしこんであります。使用法は繊維束をつまんで垂下させ、軸を指先で回転させて撚り^よりをつける(図3)というものです。紡錘車は民具の一部として現役のものもありますが、この石製のものは弥



図3:紡錘車の使用例

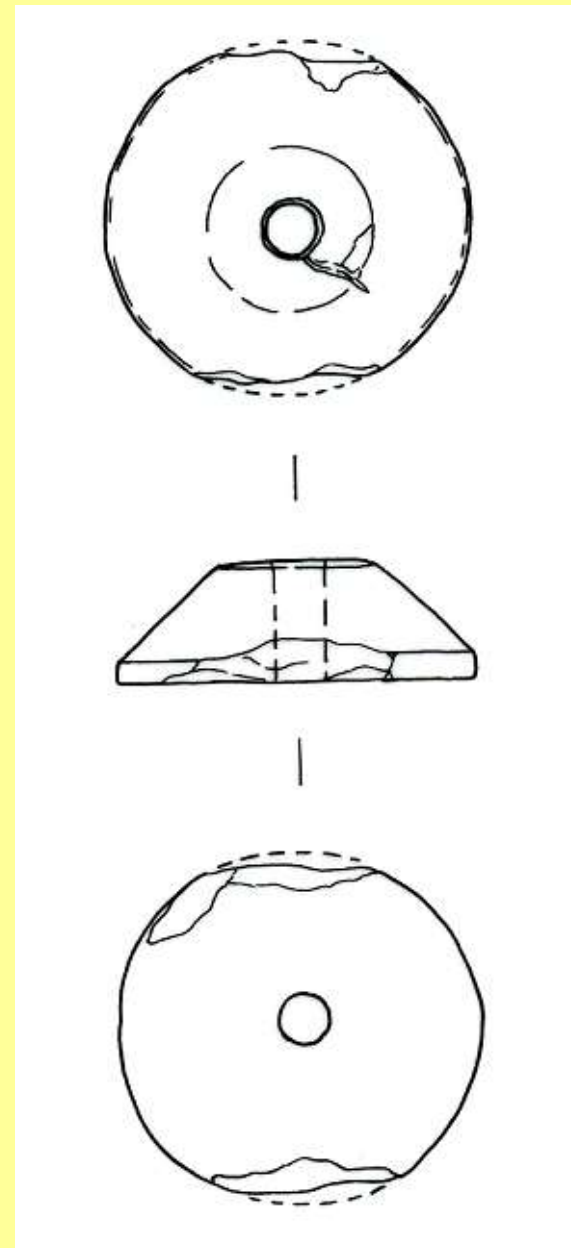


図4:紡錘車の実測図

生時代から平安時代にかけてという長い期間にわたって見られるものです。

多度津町内ではいくつもの発掘調査がむかしから行われていましたが、石製紡錘車は出土したことがありませんでした。特に今回出土した南鴨遺跡ではその大半が生産域(田畑)であったと考えられてきましたが、今回の出土によって、近隣に生活域(集落)の存在を想定することができるようになりました。

今回出土した紡錘車の時期はいろいろな時期の遺物が混じったところから発見されたので、正確なことはまだわかりませんが、おそらくは弥生時代後期から古墳時代中期頃にかけての比較的古い段階のものであると考えています。そして紡錘車の多くが円盤型の形状をしています。今回のものは円錐状の比較的珍しい形(図4)をしたもので、四国全体でもそれほど確認されているものではありません。

今回のように多度津町内の土の中にはまだまだ珍しい遺物がねむっているかもしれませんので、今後ともご期待ください。